

ケアタウン構想推進モデル事業の検証(中間)

ケアタウンとは…市民一人ひとりが、ともに支え合い、助け合いながら、安心して暮らせるまち

下府中地区

テーマ		地域の居場所づくり(相談・交流の場のあり方の検討)	
取り組みの概要		川東タウンセンターマロニエにおいて地域主体の相談・交流の場を開設	
目標		実現したい地域の姿	誰もが安心して暮らせるまち
事業評価	実施事業	ハード事業やソフト事業など、実施した事業	「ふらっとマロニエ」 川東タウンセンターマロニエにおいて地域主体の相談・交流の場を開設
	直接効果 (アウトプット)	事業を実施した結果、直接得られた効果	話し相手のいない高齢者や母子などが訪れるようになった
	波及効果 (アウトカム)	地域内で起きた変化や影響	取組を通して地域の団体や役員が団結した
モデル事業を通して見えてきた課題		<ul style="list-style-type: none"> ・地区全体に対して拠点が足りない ・関係者の共通理解が不足(事業の趣旨、全体像) ・利用者が固定化している(スタッフによる来訪者の固定化) ・運営費の確保(場所代)…運営委員会のあり方 ・人材の確保(ボランティアによる継続性は確保できるか?) ・専門的な相談に対応できるスタッフの確保(専門の相談スタッフの常時配置が必要) <li style="padding-left: 20px;">⇨ 一方では、専門的な相談を求めてくる人は少ない ・来やすい空間を創出するための演出が必要(運営面を含む) ・集まるための楽しみをどう提供するのが課題 	

ケアタウン構想推進モデル事業の検証(中間)

ケアタウンとは・・・市民一人ひとりが、ともに支え合い、助け合いながら、安心して暮らせるまち

山王網一色地区

テーマ		障がい者と地域住民とのふれあい活動	
取り組みの概要		障がい者サポートセンターを拠点に、地域住民を対象とした障がい体験や障がい者との懇談会の開催	
目標		実現したい地域の姿	障がい者も地域住民として安心して暮らせるまち
事業評価1	実施事業	ハード事業やソフト事業など、実施した事業	暗闇レストラン
	直接効果 (アウトプット)	事業を実施した結果、直接得られた効果	・障がい者と健常者との相互理解の場となった (参加者は自治会長5人、民生委員5人、地区社協5人で、視覚障がい者4名を交え、アイマスクをつけて食事を体験。当事者との対談も実施)
	波及効果 (アウトカム)	地域内で起きた変化や影響	・自治会行事での障がい者への配慮 ・日常生活での障がい者への配慮 ・公共施設への手すり・点字ブロックの設置 ・声掛け・誘導などのコミュニケーション ・通所事業所行事(7月23日)や自治会行事への相互参加
事業評価2	実施事業	ハード事業やソフト事業など、実施した事業	健康体操
	直接効果 (アウトプット)	事業を実施した結果、直接得られた効果	・障がい者と健常者が一緒にできる活動があることが分かった (参加者は自治会長5人、民生委員5人、地区社協5人で、サポセンでは通常から障がい者に対して実施している)
	波及効果 (アウトカム)	地域内で起きた変化や影響	・自治会行事での障がい者への配慮の気づき ・サポセン(障がい者)への地域の理解
モデル事業を通して見えてきた課題		<ul style="list-style-type: none"> ・関係事業所利用者が自治会行事に参加するとき、障がいに配慮した工夫も必要になる(クリーンさかわ:危険) ・障がい者は、災害時の支援が自治会から得る必要がある ・障がい特性の違いにより、障がい者同士がうまくいかない場合もある ・事業所(バリアフリー)と専門的なスタッフ(人材)の確保が必要 ・事業展開をする上では、障がい者福祉事業所のあるところでないとい困難(呼び掛け、スタッフなど) ・地域在住の障がい者との交流の場づくり 	

ケアタウン構想推進モデル事業の検証(中間)

ケアタウンとは・・・市民一人ひとりが、ともに支え合い、助け合いながら、安心して暮らせるまち

上府中地区

テーマ	地域住民による子育てサロン活動		
取り組みの概要	上府中子育てサロン開設(永塚公民館、毎月第2・第4火曜日)		
目標	実現したい地域の姿	声を掛け合える地域	
事業評価	実施事業	ハード事業やソフト事業など、実施した事業	上府中子育てサロン開設(永塚公民館、毎月第2・第4火曜日)
	直接効果 (アウトプット)	事業を実施した結果、直接得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模のため落ち着いた空間になっている ・顔見知りが増えた ・参加者同士の交流は深まっている (日常生活の中で声掛けする関係が見られた) ・リピーターが多く地域に定着してきた ・4～5家族が常連になっている ・悩みを抱える保護者が元気になった ・アドバイザーがいることで、じっくりと話を聞いてもらえる雰囲気ができている ・子ども同士の遊びなどを通して、子どもの成長を親が客観的に見ることが出来る(アドバイザーがいることで、親の客観視する手助けができる)
	波及効果 (アウトカム)	地域内で起きた変化や影響	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に関わって運営→子どもと地域との接点 ・サロンの募集ポスターを見たという子育て世帯以外の地域住民が関心・興味を持ってくれた ・地域内に認識が広がったことにより、子育て世帯が地域に出るきっかけになった
モデル事業を通して見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が少なく、固定化(利用拡大策の検討が必要) ・保育士などの専門スタッフの配置が必要か検討していく ・専門職(アドバイザー)への報酬(継続するための条件) ・サロン形式(自由遊び中心)、行事形式(イベント中心)でやるかは地域の実情・目的による ・ボランティア参加希望者の扱い(趣旨の理解徹底が必要) 子育てに対する見解(感覚)の相違がトラブルにつながることも ・行政の関わり・・・財源、専門的ノウハウ(助成、助言、講師派遣など) 運営主体:民児協・地区社協 ・同じ場所、同じ時間、同じメンバーでの継続的な運営が必要(話をする場として継続性が必要) ・「毎週やっているといい」との利用者の声 ・千代や高田地区からは場所的に来難い ・他地区の公民館などで巡回実施し、認知を拡げることが必要では ・関心を持ってくれる地域の人が増えてきたのを、どのように形にするか 		

ケアタウン構想推進モデル事業の検証(中間)

ケアタウンとは・・・市民一人ひとりが、ともに支え合い、助け合いながら、安心して暮らせるまち

早川地区

テーマ		高齢者から子育て世代までの見守り体制の強化	
取り組みの概要		地域の福祉関係団体、機関等による地域ケアコミュニティ会議の開催	
目標		実現したい地域の姿	「地域全体が家族のような地域」
事業評価	実施事業	ハード事業やソフト事業など、実施した事業	地域の福祉関係団体、機関等による地域ケアコミュニティ会議の開催
	直接効果 (アウトプット)	事業を実施した結果、直接得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉関係団体による意見交換を通して、情報共有と相互理解が図られる関係作りができた ・潜在化していた課題が浮き彫りになった ・地域ケアコミュニティ会議が高齢者部会、子育て部会、全体会で構成され、実際の福祉活動の折、その関係が有効に活かされている。
	波及効果 (アウトカム)	地域内で起きた変化や影響	<ul style="list-style-type: none"> ・救急要請カードの実施(現在では全市的に展開している)
モデル事業を通して見えてきた課題		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題ケースに対しての情報交換のあり方(守秘義務、ケース検討の行い方) ・古くからの住民と新規の住民との関係作り ・福祉団体以外の団体(自治会等)にどのように福祉に関心を持ってもらうか。 ・地域・事業者・行政の会議構成→地域独自の取組にシフトしないと全市的な展開は難しい(行政の関わり方を検討する必要がある) 	

ケアタウン構想推進モデル事業の検証(中間)

ケアタウンとは・・・市民一人ひとりが、ともに支え合い、助け合いながら、安心して暮らせるまち

東富水地区

テーマ		支援が必要な高齢者等を地域で支える体制づくり	
取り組みの概要		<ul style="list-style-type: none"> ○ 24時間365日対応型相談窓口 ○ 常設拠点を中心とした介護保険外サービス 	
目標		実現したい地域の姿	高齢者が住み慣れた地域で、隣近所の人と仲良く楽しく元気で暮らしている
事業評価1	実施事業	ハード事業やソフト事業など、実施した事業	ふれあい処ひとやすみ
	直接効果(アウトプット)	事業を実施した結果、直接得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・足湯の人気の高い(口コミ) ・保健師が常駐しているため、利用者に安心感を与えている ・20人前後が来ている(リピーターが多い)
	波及効果(アウトカム)	地域内で起きた変化や影響	足湯の設置や喫茶の提供により、利用者が立ち寄りやすくなり積極的に利用されている。
事業評価2	実施事業	ハード事業やソフト事業など、実施した事業	担い手発掘・育成
	直接効果(アウトプット)	事業を実施した結果、直接得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援のためのボランティア養成講座(定員15人) ・・・7月15日最終(全5回)
	波及効果(アウトカム)	地域内で起きた変化や影響	参加者の関心が高まり、地区内の新しい担い手の発掘をすることになった。
事業評価3	実施事業	ハード事業やソフト事業など、実施した事業	24時間365日対応型相談窓口
	直接効果(アウトプット)	事業を実施した結果、直接得られた効果	(相談件数は少ない) ・・・夜間・休日の相談は0
	波及効果(アウトカム)	地域内で起きた変化や影響	ふれあい処ひとやすみに、相談窓口を設置したことにより、気楽に相談できるようになった。
モデル事業を通して見えてきた課題		<ul style="list-style-type: none"> ・引きこもりがちな高齢者が来てくれたかは把握できていない(本当に来て欲しい高齢者は未知数) ・相談対応については専門的知識を有する人(保健師、看護師、ケアマネージャー)でなく、地域の方でもよいのではないか ・相談件数が少ないので毎日の相談体制でなくてもよいのではないか ・専門的な相談に対応する上では地域での自主的な運営は可能か? ・熱意とリーダーシップのある人がいないと運営は難しい ・資金確保(場所(賃借料・高熱水費)、設備投資、人件費) ・相談ができる場所よりたまり場的な場所が求められている ・事業系(専門性)と地域運営系(コミュニティ)の住み分けをしての事業展開が必要 	